



病診連携と高齢者



市立旭川病院 副院長・糖尿病センター長
武藤 英二

周知のとおり、今の日本では15歳未満の子供の数より65歳以上の高齢者数が多く、75歳以上の後期高齢者数はあと数年で子供より多くなるといわれています。しばらく続きそうな高齢化社会と医療の関係はどうなるのでしょうか。

高齢者の増加とともに病人が増えるのは当然です。お年寄りが具合が悪くなるとまず受診しようと思うのは、近くの(なじみの)かかりつけ医が多いと思います。そこにずっと通院できるような疾病ならよいのですが、大病なら大病院、動けず認知症もどきなら、しかるべき施設となります。

高齢者の病診連携を真剣に考えるべき時代だと思います。今は私にも具体策はありませんが、今後は高齢者の病診連携に限って診療所と病院が考えていくことが大切かもしれません。

昔、姥捨て山なるものがあったようです。おそらく、そのころの山に捨てられる老人は60歳ぐらいかと思います。現代では60歳ぐらいの人が自分の老いた両親を色々のところへ捨てるという奇妙な時代になりました。これではとても映画にはなりません。

年寄り→不要→社会的抹殺といった構図をなくすには年をとってもなるべく病気になるようにする高齢者の予防医療も大切です。ここで大切なのは高齢者を診る側の医師も高齢化していくことです。医師は変に年寄りにならず、いつまでも頭と体と心を鍛え強くする必要があります。高齢患者が勝つか、高齢医師が勝つか、それが問題です。

高齢者の疾病予防と医師の高齢化予防が大切と思うこのごろです。



放射線治療システム（リニアック）が更新されました

放射線科
中央放射線科

昨年11月より約半年にわたる休止期間を経て、平成23年3月22日から新たなリニアックによる臨床稼動を開始しました。

当院のリニアックVarian(バリアン)社製 Clinac-iXは、腫瘍に対し集中的に放射線を当てる技術が向上し、治療効果の向上や副作用の低減を可能した最先端の装置です。

当院は地域がん診療連携拠点病院であり、がん治療への更なる貢献が期待されております。

今回最新鋭の治療装置導入に伴い、皆様にその特徴をご紹介します。

①精密な病巣輪郭抽出

16列検出器の治療計画用CT、5mm(従前機種は10mm)照射野形成ブロックなどによって、精密かつ正確な病巣への照射が可能となりました。

②最新治療計画ワークステーションの導入

最新のプログラムの2機種を導入し、それぞれの特徴を生かした治療計画を実施しております。

とくにPET-CTやMRとの合成画像を用いた治療計画機能は、より正確な病態把握に力を発揮しています。

③画像誘導放射線治療の実施

リニアック本体にX線撮影、透視、CT機能が搭載されました。これにより、照射位置確認、病巣形状の観察を行うことによって、毎治療で短時間かつ正確な照射が確立されました。

④呼吸同期照射システム

呼吸管理システムを応用した治療により、自由呼吸下での病巣移動を正確に捉えた放射線治療が可能となりました。

このシステムにより、早期肺癌の治療成績向上が期待されています。

⑤現在はまだ行っていませんが、前立腺癌の治療で最先端である強度変調放射線治療(IMRT)を来年稼動に向けて準備しております。

臨床稼動の際には、あらためてご紹介させていただきます。

放射線治療医をはじめ、放射線技師、看護師スタッフ一同、患者さまの日々の状態、精神的ケアなどに配慮し、益々の安心安全な放射線治療の施行に努力し、先



放射線治療装置



放射線治療用CT

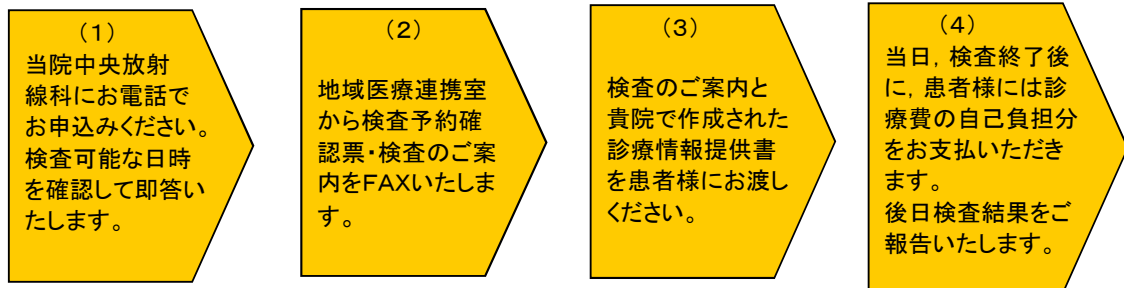
地域医療連携室のご利用について ～高度医療機器の共同利用の申込み～

市立旭川病院では、地域全体での高度医療機器の共同利用を趣旨として、患者様の検査等の申込みをお受けしております。検査等を適切に行い、事故を未然に防ぐため、予約のお申込みに際しては、その目的や方法について患者様にご説明いただき、検査等の種類や対象部位等をお知らせください。

1 共同利用検査等の種類

①CT ②MRI ③RI ④骨密度測定 ⑤放射線治療(リニアック)

2 申込み方法



⑤について：放射線治療(リニアック)は、紹介予約により受診いただいた上で治療方針を決めてまいります。FAXにより地域医療連携室で受診の予約を承ります。

3 申込み先

市立旭川病院(代表電話)0166-24-3181

①CT(内線3770) ②MRI(内線3772) ③RI(内線3724)

☞ 受診予約や共同利用の検査予約の内容につきましては、当院ホームページの地域医療連携室(http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/hospital/ach/05_region/05_03.htm)でもご紹介しております。

☞ 受付 月曜日～金曜日(祝日を除く) 8:30～17:00

災害医療支援活動

当院から、4月5日から12日の日程で支援チーム(医師1名、看護師2名、理学療法士1名)を派遣しました。

避難所を何か所か回りながら、避難者と周辺住民の診療にあたりました。

引き続き、支援チームの第2陣(医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名)を5月18日から24日の日程で派遣しました。

被災地の一日も早い復興をお祈りしております。





胸部外科診療部長
大場 淳一

旭川に生まれ育ちました。昭和31年の申年生まれです。見かけと違い幼少時は病弱でした。9歳、11歳と2度にわたって髄膜炎に罹患、ほぼ半年間、入院しました。記憶力が悪いのはその後遺症です。

今は廃校になった日新小学校に3年、青雲小学校には後半の3年通学しました。入院生活が長かったので実質5年しか行っていませんが、おおらかな時代でしたから卒業できたのでしょうか。長い入院経験が医師を目指すきっかけだったかもしれません。聖園中学校、旭川東高校を経て昭和57年に北海道大学医学部を卒業しました。

心臓外科医になろうと決めたのは大学5年のころです。良い意味でも悪い意味でも勝負の早い心臓外科が、せっかちで短気な私の性格に合っている、という単純な理由でした。卒業後は北海道大学第二外科に入局。関連施設である帯広厚生病院外科で最初の2年間のトレーニングを受けました。北大に戻ってから本格的な心臓外科トレーニングを始めました。

平成元年は昭和天皇の崩御、ベルリンの壁崩壊などの大きな事件があった年ですが、私はこの年シカゴのノースウェスタン大学に留学しました。肺移植や補助人工心臓の実験的研究のかたわら、心臓移植、肺移植、小児心臓手術を間近に見ることができました。

2年後に帰国、母校の教官を3年半勤め、平成6年10月に市立旭川病院に赴任しました。以来、村上忠司先生、青木秀俊先生の指導を受け、優秀な同僚や後輩に恵まれて17年が過ぎました。今まで社会から受けた多くの恩恵を還元すべく、後輩や若手を指導していくことが今後の役目だと思っています。



お知らせ

コーヒーショップがオープンしました！

今月、当院1階エスカレーター横に

コーヒーサロン・ビーンズが開店しました。

飲み物のほか、アイスクリームやケーキなどのデザート、パンのセットもあり、患者さんやお見舞いの方などに利用されています。ぜひ、お立ち寄りください。



編集後記

大型連休も終わり、皆さんいかがお過ごしでしょうか。今年は、5月も下旬だというのに、まだ肌寒く、外でお花見を楽しむこともなく、桜の時期も終わってしまったという方も多いのではないのでしょうか。これから、北海道は初夏の爽やかな季節が到来、張り切っていきましょう！

市立旭川病院 地域医療連携室

〒070-8610

旭川市金星町1丁目1番65号

TEL(0166)24-3181(内線5370)

FAX(0166)26-0008